

海洋技術フォーラムシンポジウムのご案内

海洋技術立国の基本戦略 ～EEZ が救う日本の未来～

参加無料

拝啓 梅雨の折から、皆様にはますますご健勝の事と存じます。海洋技術フォーラムの活動に対して、いつも格別なお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

私ども、海洋技術フォーラムでは、船の祭典 2010 実行委員会をはじめ、東京大学海洋アライアンスとともに、総合海洋政策本部、国土交通省、海洋政策研究財団、日本プロジェクト産業協議会の後援をいただき、下記要領で標記シンポジウムを開催いたします。

さて、我が国が直面する、資源・エネルギーセキュリティ、食糧自給率の低下など深刻化する問題に対して、

- 資源量で有数のポテンシャルを持つ世界第 6 位の広さの EEZ(排他的経済水域)開発を進めるためにはどのような技術が必要でしょうか。
- また、その開発を進めるべき海洋新産業をどのように育成していけば良いでしょうか。このために、官民がどのような取組みを進めるべきでしょうか。

本シンポジウムでは、こうした観点から、当フォーラム代表 湯原をはじめ、パネリストの方より、海洋最前線、海洋新産業の育成に向け取り組むべき課題等について話題提供をいただきつつ、今後目指すべき方向性について、皆様と考えていきたいと思っております。

私たちは、本シンポジウムが、我が国の新しい成長を支える「海洋産業立国」実現に向けた鍵となり、ひいては、現在政府で検討が進められている「海洋国家成長戦略」への議論の足がかりとなることを願っております。ご多忙中とは存じますが、ご来場賜りますようお願い申し上げます。略儀ながら、書中にてご案内申し上げます。

敬具
海洋技術フォーラム

記

日 時 平成 22 年 5 月 26 日(水) 13:00～16:00

プログラム (詳細については別添1をご覧ください)

1. 開会挨拶

海洋技術フォーラム 代表 湯原 哲夫
船の祭典 2010 実行委員会 委員長 梅原 利之

2. 来賓挨拶

国土交通省 四国運輸局長 宮村 弘明

3. 基調講演

海洋技術フォーラム 代表 湯原 哲夫

4. パネルディスカッション ～ 海洋新産業の育成に向けて～

コーディネータ 海洋技術フォーラム 代表 湯原 哲夫
パネリスト
愛媛大学 山内 皓平
大阪府立大学 山崎 哲生
日本プロジェクト産業協議会 高島 正之
東京大学 高木 健

会場 サンポートホール高松第 1 小ホール(別添2 をご覧ください)

参加申込 海洋技術フォーラム ホームページからお申し込みください。
定員 300 名。 <http://blog.canpan.info/mt-forum/archive/384>

問い合わせ先 海洋技術フォーラム事務局 E-mail: ocntechf@gmail.com
ホームページ <http://blog.canpan.info/mt-forum/>

海洋技術フォーラムシンポジウム

海洋技術立国の基本戦略～EEZ が救う日本の未来～

- 日時 : 平成 22 年 5 月 26 日(水) 13:00～16:00
- 場所 : サンポートホール高松第 1 小ホール
- 主催 : 海洋技術フォーラム
- 共催 : 船の祭典 2010 実行委員会、東京大学海洋アライアンス
- 後援 : 総合海洋政策本部、国土交通省、海洋政策研究財団、日本プロジェクト産業協議会

プログラム

1. 開会挨拶 .. 13:00-13:10

海洋技術フォーラム 代表 湯原 哲夫
船の祭典 2010 実行委員会 委員長 梅原 利之

2. 来賓挨拶 .. 13:10-13:15

国土交通省 四国運輸局長 宮村 弘明

3. 基調講演 .. 13:15-14:00

海洋技術立国の基本戦略 ～EEZ 総合開発と海洋新産業の創出～

海洋技術フォーラム 代表 湯原 哲夫

- 平成 17 年 8 月の海洋技術フォーラム発足以降、大学、産業界、学協会、研究機関、計 17 団体からなる同幹事会を中心とし、科学技術基本計画、海洋基本法及び海洋基本計画に対して、海洋技術による海洋産業基盤の再構築と海洋新産業の創出に向けた提言活動を行っている。
- 海洋技術フォーラムは、海洋の利用と開発により、我が国が将来遭遇するであろう危機(資源、エネルギー、食糧、環境の危機)を克服出来るとの信念をメンバーで共有し活動を続けており、これまでの活動により得られた成果について紹介する。

4. パネルディスカッション

.. 14:00-15:55

テーマ「海洋新産業の育成に向けて」

コーディネータ 海洋技術フォーラム 代表 湯原 哲夫

パネリスト

(独)海上技術安全研究所 理事長 井上 四郎

- ① 海洋技術開発による我が国 EEZ の総合開発 : 我が国 EEZ の総合開発を進めるために必要な技術について取り上げるとともに、実海域でのエンジニアリングプロジェクト等それらの技術を確立するための方策について、海外での事例等も交えつつ紹介する。

愛媛大学 教授 山内 皓平

- ② 海洋生物資源の保存と利用 ~ 持続可能な養殖技術 ~ : 水産業を通じて、これまでに行われてきた産学官連携や地域振興の事例を紹介するとともに、海洋新産業の創出に向けた養殖の展望について取り上げる。

大阪府立大学 教授 山崎 哲生

- ③ 海洋資源メジャーを日本に創ろう ~ 海底熱水鉱床・メタンハイドレート開発 ~ : 我が国 EEZ にある海底熱水鉱床やメタンハイドレートの開発について、世界に先駆けて早期に技術的優位性を確立するとともに、戦略的な国際展開を図ることにより、海外権益の確保にも繋がることを期待されている。そのために、我が国が主導して取り組むべき事項について提案する。

(社)日本プロジェクト産業協議会 海洋資源事業化研究会 主査 高島 正之

- ④ 海洋開発はここまできている ~ 海洋資源開発の事業化に向けた取組 ~ : 日本プロジェクト産業協議会の海洋資源事業化研究会は、2008年6月に発足(2009年10月時点で57社の民間事業者が参加)し、海洋開発・利用の早期実現を目指して活動中。これまでの同研究会の活動について紹介するとともに、民間事業者が海洋開発・利用を進めるにあたって、解決すべき課題等について取り上げる。

東京大学 教授 高木 健

- ⑤ 地産地消型海洋再生可能エネルギープロジェクト : 風力、潮流・海流、波浪等の海洋再生可能エネルギー利用を実現するために、地域社会との連携のもとに、地域・離島で生産・利用を一貫して行う地産地消型の取組を図ることが重要。このような取組を推進するための方策について取り上げるとともに、海洋再生可能エネルギーを積極的に利用するための技術を確立するために現在進行しているプロジェクトについて紹介する。

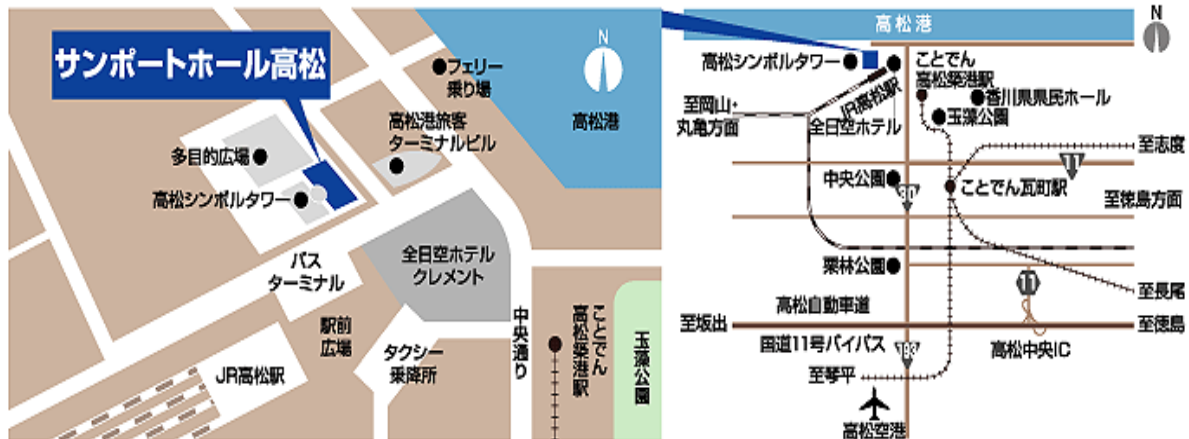
5. 総括

.. 15:55-16:00

東京大学 教授 高木 健

会場のご案内

サンポートホール高松



住所

〒760-0019 香川県高松市サンポート2番1号

※ 会場に関するお問い合わせ先

(財)高松市文化芸術財団(TEL: 087-825-5000)

会場へのアクセス

- JR 高松駅から徒歩 3 分
- ことでん高松築港駅から徒歩 5 分
- 高松港から徒歩 2 分
- 高松自動車道 高松中央 IC より国道193号へ 車で約 20 分
- 高松空港からことでん高松空港リムジンバス 高松駅行き乗車 40 分

※ シンポジウムに関するお問い合わせ先

シンポジウム当日

船の祭典 2010 実行委員会(TEL: 087-825-1618)

シンポジウム前日まで

海洋技術フォーラム事務局(E-mail: ocntechf@gmail.com)

サンポートホール高松 第1小ホールのご案内

- サンポートホール棟内は全館禁煙、ホール内は飲食禁止です。
 ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。
 喫煙される方は、1階タリーズコーヒー前の喫煙スペースを
 ご利用ください。

